

2 「平成14・15年度児童生徒の心に響く道徳教育推進事業」

推進校・推進地域の取組に学ぶ

県教育委員会では、平成14年度より、各学校や教育委員会の創意工夫を生かした児童生徒の心に響く道徳教育を推進するための実践研究を行っている。

以下に、平成14・15年度の本事業の概要を示す。

研究課題と課題設定の理由

(1) 体験活動等を生かした道徳教育の充実

児童生徒の心に響く道徳教育を展開するためには、体験活動等を生かすなど指導の工夫が重要である。本県においても、各学校で職場体験学習やボランティア体験学習など児童生徒に豊かな心をはぐくむ体験活動が活発に行われている。そういった体験活動が単なる体験に終わることのないよう、小・中学校の道徳の時間や高等学校のホームルーム活動との関連を図り、児童生徒が道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力が養われるよう指導することが大切である。

(2) 文化や伝統を大切にすることを育てる道徳教育の充実

国際化が進展する中で、児童生徒に自国の歴史、文化・伝統を愛する心をはぐくむとともに、国際協調の精神を養うことが求められている。

本県には、世界文化遺産にも指定された文化財や神社仏閣などが数多く存在し、児童生徒は日常的に文化や伝統に接することのできる環境にある。文化と伝統に対する理解を深め、尊重し、更に継承、発展させる態度の育成は、個性豊かな文化の創造と社会の発展に貢献していくとともに、これからの国際社会において信頼され、主体的に生きていくために重要である。

本事業の実施体制

研究課題	体験活動等を生かした道徳教育の充実
推進校	五條市立五條小学校、西吉野村立奈良県立五條高等学校賀名生分校
研究課題	文化や伝統を大切にすることを育てる道徳教育の充実
推進地域	安堵町（安堵町教育委員会、安堵小学校、安堵中学校）

推進校の取組

(1) 体験活動等を生かした道徳教育の充実

五條市立五條小学校

今日を生き、明日を拓く^{ひら}子らに

1 はじめに

本校では、社会の変化に主体的に対応し、自らの生活を切り拓きながら、なかまと共によりたくましく生きていく子どもたち、すなわち、「生きる力」をもった子どもたちを育成するために、道徳の時間や体験活動等を通して心の教育の充実を図る必要があると考えた。そこで、体験活動等を道徳の時間にどう生かしていくのか、道徳の指導内容と道徳実践の場とをどう結び付けることができるのか、開かれた道徳教育をどのように進めていくことができるのかの3点を中心に研究と実践を積み重ねてきた。

2 取組の概要

(1) 体験活動等を生かした道徳の時間を充実するための手順と工夫

・ねらいの設定	○ねらいの設定 指導内容と児童の実態とを考え合わせながら、焦点化したねらいを設定する。
・資料選定と資料分析	○資料選定と資料分析 児童の体験を生かすことのできる資料を選ぶとともに、授業の中で考え合いたい中心場面を明らかにする。
・展開の工夫	○授業展開の工夫 ねらいに迫ることができるよう、授業の前後や一時間の授業の中での児童の心の動きを、児童の発言やつぶやきといった具体的な形で予想しながら、授業展開や中心発問、基本発問等を考える。
・導入	ア 導入の工夫 事前調査、「心のノート」やビデオ等の活用により、児童の学習への課題意識や意欲を高める。
・資料提示	イ 資料提示の工夫 大型絵本、一枚絵、視聴覚機器の利用等によって、児童の興味・関心を喚起し、資料に入り込みやすいようにする。
・交流	ウ 多様な考えや思いを交流し、高め合う工夫 短冊カード、場面絵、心情曲線などを活用し、児童から出された多様な意見を類型化しながら板書する。また、「心のノート」、吹き出しカード等に思いを書き込み発表させることによって、児童が互いの考えや思いを深め合うことができるようにする。
・自らの変容を確かめる	エ 自らの変容を確かめる工夫 自己評価をしたり、「心のノート」に自由に書き留めたりしながら、児童自らが自分の心の変容を確かめられるようにする。
・説話	オ 説話の工夫 児童が教員やゲストティーチャーの体験談を聞き、よりよく生きていこうとする意欲をもてるようにする。

(2) 本校が大切にしている指導過程

○指導過程

- ・気付く
- ・つかむ
- ・見つめる
- ・あたためる

指導過程		学習内容	指導上の留意点
導	気付く	事実を認識し、課題をもつ。	○ 自分の体験（様々な日常体験や体験活動）に目を向ける導入を行うことで、意欲的、主体的に課題に取り組むことができるようにする。
展	つかむ	中心資料を通して、ねらいとする価値を追求し、把握する。	〔資料提示……範読・紙芝居・視聴覚機器など〕 ○ 資料の読み取りをていねいに行うことにより、資料の主人公に共感し、自分のこととして心情を深めることができるようにする。 ○ 場面絵や心情曲線などを活用し、板書を工夫することで、一人一人の多様な考え方や感じ方を引き出して、自分の価値観を意識することができるようにする。
開	見つめる	自己の経験や体験を振り返り、自分とのかかわりの中で、道徳的価値を主体的に自覚する。	○ ワークシートや「心のノート」などを活用することで、今までの経験や体験を振り返り、より高い価値を自覚し、深めることができるようにする。〔書く、話し合いなどの表現活動〕
終	あたためる	その日の学習を振り返り、まとめる。	○ 教員自身やゲストティーチャーが体験談等を語ることで、よりよく生きていこうとする意欲をもつことができるようにする。〔まとめ……説話・作文など〕

(3) 実践事例（第6学年）

- ・高3-(2)
- ・児童の意識の流れを予想し、体験活動との関連を図る
- ・気付く段階
- ・「心のノート」
- ・事前アンケート
- ・つかむ段階
- ・場面絵の活用

- 1 主題名 「かけがえのない命」（内容 高3-(2)）
資料名 「生きている喜び」（出典『あすをみつめて』日本文教出版）
 - 2 学習の流れ（45頁の資料）
児童の意識の流れを予想し、各教科や特別活動などにおける体験活動との関連を図った。
 - 3 ねらい
生きていることのすばらしさや喜びに気付き、自他の生命をかけがえのないものとして尊重しようとする心情を育てる。
 - 4 本時の展開の実際
気付く段階……「いのち」について、実感した経験を話し合う。
○ そっと胸に手を当ててみよう。命の鼓動が響いてくるね。大きく息を吸い込んでみよう。体の中に新しい元気が入ってくるね。そして、手を大きく広げて背伸びをしてみよう。体の中から生きる力がわいてくるね。今日は、「生きる」ことについて考えます。
※ 「心のノート」64ページから引用して、本時の学習への意欲を高めた。
○ 「生きていてよかったなあ。」と思ったのはどんなときですか。
・いろいろな食べ物が食べられる。
・好きなことや趣味ができる。
・楽しいことや、悲しいことや、いろいろな出会いがある。
- ※ 事前アンケートにより、児童の体験を把握しておくようにした。
つかむ段階……資料「生きている喜び」を読んで話し合う。
※ 場面絵を提示することにより、主人公の思いの変化をとらえられるようにした。
○ 小・中学校のころ、「私」はどんな子どもでしたか。

・活発で元気な子。

○ でも、高校3年生から不思議なことが起こり始めました。バトンをもらう味方の走者が二重うつしに見えたときの気持ちは？

- ・あれ、何かおかしいな。
- ・どうなっているの？
- ・どっちが本物だろう。



○ 右腕が口まであげられなかったり、お箸(はし)が口まで運べなくなったりしたときの気持ちは？

- ・いつもなら普通に動いていたのに、なぜ動かないんだ。
- ・なんか体がおかしいぞ。

○ 言葉が話せなくなり、階段から転がり落ちたり、食べることもできなくなったりしたときの気持ちは？ ・どうしてこんな体になったんだろう。

- ・病気かもしれない。
- ・ぜったいおかしい！

○ そして、とうとう体が自由に動かせなくなってしまったのです。そんな状態になった「私」は、どんなことを考えたでしょう。

- ・どんどん異変が大きくなってきた。死んでしまうのではないか。
- ・大学にも行けないなら死んだ方がいい。
- ・どうしてこんなことに。何もできない体はいやだ。



◎ こんなふうにも、死ぬことばかり考えていた「私」を、「生きたい！生きるんだ！」という思いに突き動かしていったのは何だったのでしょうか。

- ・生きる力があるんだ。死ぬものか。
- ・死にたくない。友達に会いたい。また運動したい。
- ・まだまだしたいことがある。生きてると楽しいことがある。頑張って生きよう。
- ・死んでもいいなんて……。自分のことを支えてくれる周りのみんながいるのに。



※ 懸命に治療や看病をしてくれる周囲の人々の存在をおさえることで、自分の命がみんなに支えられているということに気付かせるようにした。

○ こうして、失いかけた命を取り戻すことができた「私」は、どんなことに気付いたでしょう。

- ・一つ一つできるようになることがうれしい。これが生きているということなんだ。
- ・生きるって大切なんだな。
- ・生きていることはすばらしいんだな。



・見つめる段階
・ワークシートの活用

見つめる段階……自分自身を振り返り、ワークシートに書く。

○ みなさんの日々の生活の中で、命は大切にされているでしょうか。命を大切に生きていくとは、どんな生き方をすることだと思いますか。書いてみましょう。

- ・自分が健康に過ごせることも命を大切にすることだと思ふ。そのためには食事をすることも大事。私たちが食べているものは命がいっぱいあると思ふ。だから、その大切な命をむだにせずに食べたい。
- ・友達とけんかして足をけってしまった。ぼくは、これからけんかなどして友達を傷つけたりしない。それが、人の命を大切にしていることだと思ふ。
- ・私が一番嫌いな人は、自分の命をむだにしたり、人の命を奪ったりする人だ。だから、戦争は大嫌い。反対に、小さな命でも大切にしている人がいる。私も命を大切

にする人になりたい。

※ 机間指導をして助言を加えることで、日々の生活や今までの体験を思い起こしながら考えを深めていけるようにした。

- あたためる段階
- 詩の提示
- 板書の工夫

あたためる段階……担任の説話を聞く。

○ 相田みつおさんの「自分の番」という詩を聞きましょう。

※ 詩を提示することによって、一人一人の心に残るようにした。

5 板書



6 考察

- 場面絵の効果
- 切り返しの発問

○ 場面絵を用いて主人公の心情の変化を追いかけることで、「死」に直面するという、子どもたちの日常の生活体験にはない状態の心情に迫ることができた。しかし、発問に対する子どもの発言への問い返しが弱く、更に深い思いを子どもたちの心の中から引き出しきれなかった。

○ 本授業では、懸命に治療や看病をしてきている周囲の人々の存在をおさえることで、生命が自分だけのものではなく、みんなに支えられているということをとらえさせ、自他の生命へと意識を向けられるようにした。それに加えて、主人公が感じている「生きている喜び」が何であるのかをもう少し掘り下げ、「生かされている」という感謝の念にまで迫ることができれば、なお深まったのではないかと思う。

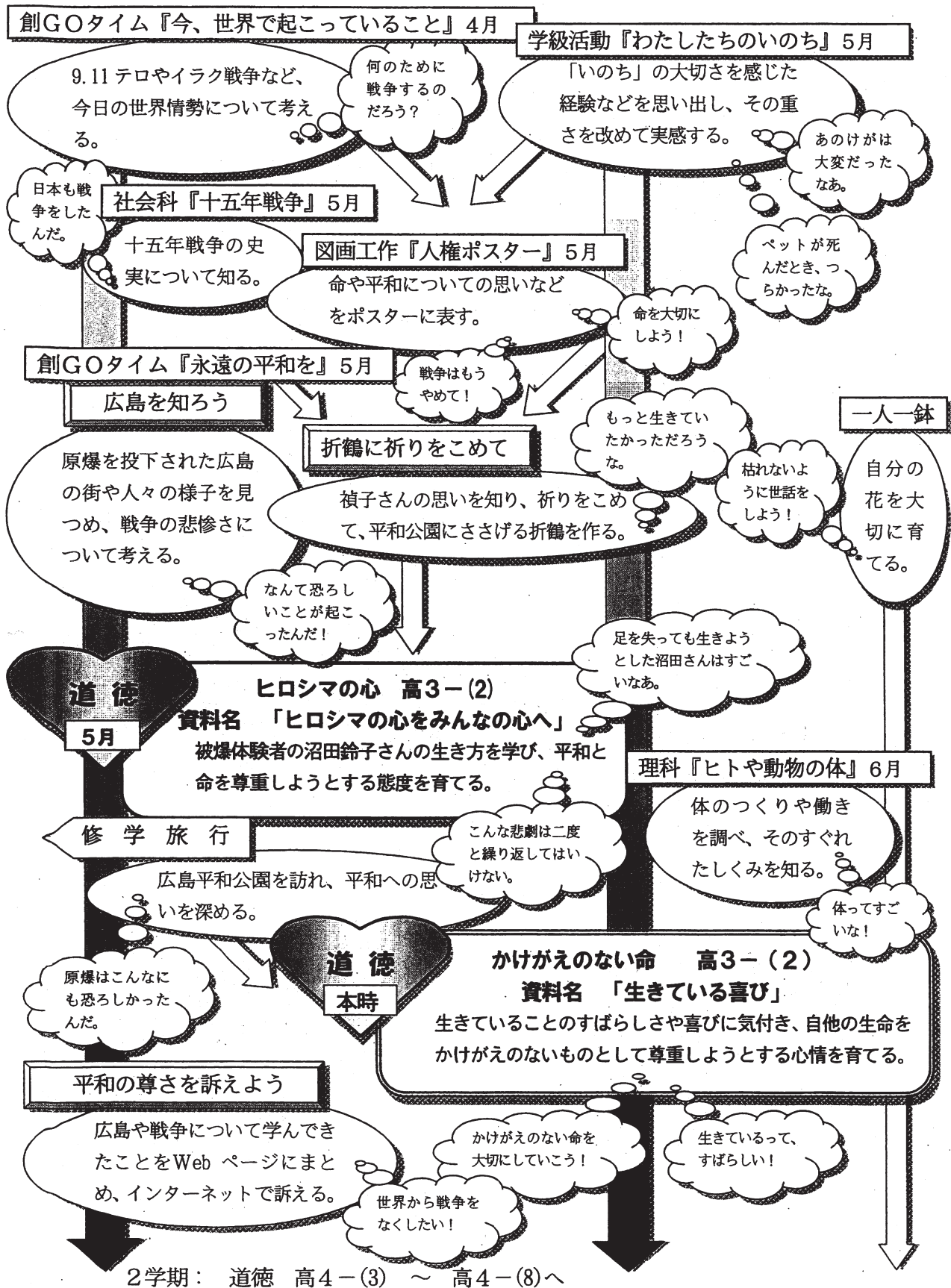
○ 自分のこれからの生き方を考えたとき、日常生活や修学旅行などの体験を生かして、自分なりの思いを綴ることができた。ただ、戦争を論じる場合の子どもたちの視点はまだまだ第三者的である。今後の学習の継続が課題である。

板書の工夫……

- ① 児童生徒の意識を連続・発展させる板書構成をしよう。
- ② 道徳の内容の深まりが見える板書構成をしよう。
- ③ 児童生徒の意見を積極的に採り上げる板書構成をしよう。

発問の工夫……

- ① 資料を読めば答えられるような発問にせず、児童生徒の多様な意見を引き出せる発問をしよう。
- ② 行動の仕方だけを考える発問にせず、行動の根底にある心の在り方に迫る発問をしよう。
- ③ 内面的な心の動きを表現する副詞や副詞句に留意して発問をしよう。



(4) 道徳的実践活動の場や環境の整備

本校では、体験活動を拡充し、道徳性が養われる環境づくりをすることで豊かな心を育てたいと考え、重点的な取組を下記のように設定して取り組んだ。

・児童の感性を豊かに

□ 児童の感性を豊かにする。

困っている人がいればやさしく声をかける、喜びや感動を伴って動物や植物を育てる、少しでも自分をよくしようと心掛け自分の成長を素直に喜ぶ、美しいものを美しいと感じることができるなど、日常生活において、感動したり、喜びを感じたり、満足感を味わったりできるようにする。そうした体験の積み重ねによって、人間としての心の基本である道徳的価値を身に付け、一人一人の人格形成を図っていきけるようにした。

・体験活動と道徳の時間の関連

□ 体験活動と道徳の時間の関連を図る。

体験するだけで事足りりとするような活動であってはならない。その活動のねらいとする道徳的価値について補充・深化・統合する道徳の時間が大切である。そこで、道徳の時間の充実の項で述べたように、体験活動の中での児童の意識の流れを基に、様々な体験と道徳の時間とのつながりを考えて、学習を組み立てるようにした。

・主体的な活動の重視

□ 主体的な活動を大切にする。

自分たちで計画し、仕事を分担し、協力し合い、自分たちの力で成し遂げる。そのことを通して、子どもたちに、思いやりの心、善悪の判断、我慢強さ、他と協力し共に生きる姿勢などを培うことができる。また、その中で見つけた友達のよさを、「心の花コーナー」や「心のおたよりコーナー」で紹介することで、進んで道徳的実践を行おうとする態度を養うことができるようにするとともに、学級や全校の活動を促し、集団が高まっていくように工夫した。



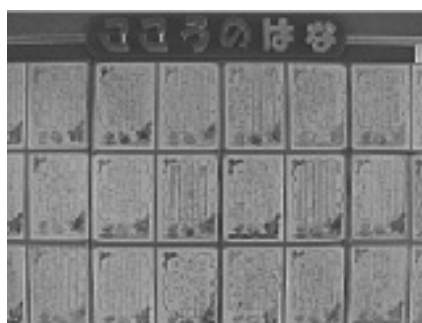
自分を見つめて
〈朝の一斉読書ときめきタイム〉



明るい心で
〈みんなで歌う朝のハーモニー〉



学校を美しく
〈6年生による朝の清掃活動〉



〈各学級に設けられた心の花コーナー〉

心の交流の場



〈児童昇降口に設けられた心のおたよりコーナー〉

(5) 家庭や地域との連携について

本校では、以下のような取組を行い、学校と家庭、地域の連携を深めてきた。

- 公開授業と懇談会 学習参観・学校懇談会（保護者・地域の人々対象）の実施
- 通信 道徳新聞「かけはし」の発行とホームページの公開
- 教育講演会 親子ふれあい活動の実施
- 標語募集 家庭訪問、学級懇談会、地区別懇談会の実施
- 地域での活動 教育講演会の実施
- 道徳標語の募集
- 地域の人々との交流及び地域の施設の活用
- 地域でのクリーン活動



〈道徳新聞「かけはし」〉



〈道徳の公開授業〉



〈教育講演会〉



〈親子ふれあい活動〉

3 成果と課題

- より深い道徳的価値の自覚 ○ 体験活動等と関連付けた道徳の時間は、道徳の時間の1時間だけの授業に比べて、より広く深い道徳的価値の自覚に結び付くこと、また、自分のよりよい在り方について考えを深めることができることを実感した。また、子どもたちの体験を生かすための綿密な資料選びや資料分析、自作資料の開発、発問や板書の準備は、子どもたちに道徳的価値の自覚を促すだけでなく、教員自身の道徳教育の力量を高めることにつながった。
 今後も、ねらいとする道徳的価値を教員自身が十分に理解し、子どもたちの意識の流れを予想しながら、すべての児童がねらいを実現できるように、支援の方法、ワークシートや評価カードの工夫、「心のノート」の活用の仕方など、更なる研究実践を積み重ねていきたい。
- 道徳的実践の場と道徳的環境 ○ 道徳の時間と体験活動との関連を図り、意図的、計画的に道徳的実践の場や機会を設定したこと、また、「心の花コーナー」や「心のおたよりコーナー」など道徳的環境を整備、充実したことで、子どもたちの活動意欲も高まり、家庭や地域での活動にもつなげることができた。今後も、主体的な活動を支援し、道徳の時間との関連を図りながら、すべての児童に豊かな道徳的実践力を身に付けさせていきたい。また、本校の特色でもある「ときめきタイム」や「朝のハーモニー」の時間を更に充実・発展させ、心豊かな児童の育成に役立てていきたい。
- 学校からの発信 ○ 道徳新聞「かけはし」の発行やホームページの公開、学習参観や学校懇談会の実施により、学校の取組を地域の人や保護者に知ってもらったり、家庭や地域での子どもの様子を語ってもらったりした。このことで、道徳教育に対する関心が高まり、連携を深めることができた。地域の人々の感想の中に、「地域の子どもとして、進んで声をかけていきたい。」という言葉があったのはうれしい。今後も、参観週間の実施や、ゲストティーチャーの活用など、積極的な交流を計画し、学校と家庭、地域の連携をより強く、より深くして、子どもたちに豊かな道徳性をはぐくんでいきたい。
- 学校と家庭、地域の連携